

#### 第4回経済地理学会賞選考結果

候補者名 : 中澤 高志

受賞著作 : 『職業キャリアの空間的軌跡-研究開発技術者と情報技術者のライフコース』  
(大学教育出版, 2008年, 187ページ)

受賞理由 :

本書は、戦後日本の労働者の地域移動について、研究開発技術者と情報技術者を取りあげ、職業キャリアとその空間的軌跡に注目し、それらを社会経済的な変化と関連づけながら、主に個人のライフコースに焦点を置いて明らかにしようとした研究である。就業という経済活動を空間性という観点から説き明かした、経済地理学の優れた研究書と言える。

まず冒頭において、本書の鍵概念となるライフコースについて詳細に検討した後、研究開発技術者を対象とした2章、情報技術者を対象とした3章において実証研究を行う。研究方法は個人のライフコースを大量に観察するアンケート調査が中心であるが、一部に企業経営者へのインタビューも行き、統計的解析を補足している。その結果、研究開発技術者については新規学卒労働市場における労働力移動のメカニズム、就職後のキャリアと居住地移動を、また情報技術者については地方圏における実態を明らかにし、両者の違いも見出している。

本書の優れた点として、下記のように、研究のオリジナリティの高さなどがあげられる。

第1に、問題意識が明確に示され、それによって全体が貫かれている。自らの地域で生活し労働する権利の視点を明示し、また、日本における新たな雇用体系とその下での生活のあり方を追究する意義にも言及している。

第2に、従来の労働力移動の研究が人口集団に重点を置いていたのに対し、本書はライフコースという概念を新たに導入することで、個人に焦点を当てた分析を可能としている。この点は経済地理学全体に資するものである。

第3に、東京一極集中に代表される日本の地域構造の問題に、従来の企業・産業面のアプローチではなく、研究開発技術者と情報技術者という労働者個人の集中と分散という地域的移動から迫っている。

第4に、本書の随所に、経済現象の空間性に関わる示唆的な論考が見出される。

以上の理由により、経済地理学会賞選考委員会は、受賞著作が、内規第2条で規定される対象著作のなかで最もすぐれたものであると判断し、中澤高志会員を第4回経済地理学会賞受賞候補者として推薦する。

2009年4月15日

経済地理学会賞選考委員会 :

岡橋秀典(委員長)、日野正輝、高柳長直、  
富樫幸一、小林浩二、生田真人、山本健児